

シニアのゲンキで マチが輝く!! 😊

＜＜少子高齢社会のなか、豊富な経験や技術をもつシニアの方々が、生涯を通じて仕事や地域活動、生涯学習・スポーツなど、さまざまな分野でイキイキと活躍できる社会（生涯現役社会）づくりが望まれています。お元氣なシニア世代がたくさんいらっしゃることで、活氣にあふれる地域社会となっていくます。そこで、おゲンキなシニア世代の方々をシリーズでご紹介してきました。その最終回は、自称“おはなしおじさん”こと、岡本修二さんです。

■自分自身の時間を…

近くの小学校に行き、授業前の朝の10分間、民話なんかを子どもたちに話して聞かせるんです。みんな、興味深そうに聞いてくれます。町で出会ったら、“おはなしおじさんだ!!”って声を掛けてくれる。嬉しいですね。

＜元は山口放送の名物アナウンサー。今は“おはなしおじさん”として各所で活躍されるほか、子どもの文化研究会、点訳やまびこの会、コミュニティビジネス研究会、さらには市民参画審議会など市の委員と、多忙な日々を送られている岡本さん。＞

現職時からボランティア活動をさせていただいていたので、退職後にいったい何をしたらいいかといった不安はなかったですね。それよりも、やっとこれでぼく自身の時間がもらえるといった喜びの方が大きかった。台風などの災害でもあれば、何があろうと会社へ行かなくてはならなかったぼくが、今ではまずは家、それから地域、そして気になる人を心配できる時間を十分もてるようになりましたね。

そうは言っても、退職して数日後、家で庭仕事をしていたとき、「〇〇さんのお宅はどちらですか？」と見知らぬ方から問い掛けられ、わからなかったので家内に聞いてみたところ、ナンと数軒先のお宅。仕事ばかりに



出合いの喜びと感謝の心

おはなしおじさん **岡本 修二さん (69)**
Shuji Okamoto

一生懸命になって、地域のことをまったく知らなかった自分。思えば、子育ても地域の活動もすべて家内まかせでした。反省しましたね。

■ますます楽しくなった人生

ありがたいことに、自分のような者にたくさんの方が声を掛けてくださいました。そこには、打算や駆け引きのない世界がありました。新鮮でしたね。

これまで出会ったことのないタイプの方々との出合いの場、ぼくが知らなかったことを教えてくれる場、そうしたところに身を置き始めて、それら一つひとつに感謝できるようになった、人生がますます楽しくなった…、そう感じています。

＜岡本さんのお話を伺っていると、とても70歳を前にした方とは思えない覇氣が感じられます。元氣の源は何？＞

新しいことに挑戦していこうというも思っています。たとえば、長年やってきた音訳（※視覚障害者向けの音声図書）も、昔ながらの力セツ

トテープ録音からCD録音に変わりつつあります。パソコンに朗読を取り込んで編集していくんですね。こりゃあ時代に付いていかれないと思ったらお終い。たいへんでしたが、ぼくも汗をかきながら勉強しました。新しいことにアレルギーを示さないようにと常々、心掛けています。

＜今後の夢は？との問いに、「地球をもっと楽しみたい」と笑顔で語られる岡本さん。「ぼくは知らないことばかり。知らないことを教えてもらうには、多くの人や物と関わり合うことなしには得られません。だから、もっともっと社会と関わりをもっていきたいですね」と岡本さん。ご自身の経験や知識を活かしていただきながら、それを地域社会の中で発揮していくことは、そのまま自分自身のいきがいにつながることで、そしてそれは地域社会の活性化にもつながっていくことを、再認識させていただきました。シニア世代の方、活動の場は社会の中にヤマほどあります。どうぞ、輪の中に加わっていただき、新しい旅を始められてはいかがでしょうか!!＞